

令和7年度 学力向上を図るための全体計画



本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内の研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
・基礎基本を徹底させる指導方法を工夫していく。 ・体験的・問題解決的な学習を重視する。 ・ユニバーサルデザインの視点をもって、教材教具・指導法の工夫や整備、タブレットやICTを活用し、学習環境の充実を図る。	・学校行事の精選を図り、授業時数の確保に努める。 ・「短国」を設定し、読み書きの力を定着させる。 ・算数科の習熟度別授業を中心に、個に応じた指導の充実を図る。	・「考えを共有し、比較・分類・精査することを通して自分の考えを深められる児童の育成」を研究主題に設定し、授業研究や研修を通して、指導の工夫を追究していく。 ・講演会や研修の機会を増やし、知識や技術の向上に努める。 ・教科担任制の実施・改善を図る。	・児童の学習に対する意欲喚起や学習方法の改善につながるように、指導と評価の一体化を図る。 ・学びを振り返ることができるノート指導など、学び方を明確にすることで学力の向上を図る。	・教育活動を積極的に公開し、保護者や地域と連携を図るとともに、学校教育への理解と協力を求める。 ・学校評議員制度を活用し、教育活動の充実に向けた意見を取り入れる。